

株主のみなさまへ

中間配当見送りについてのお詫びと今後の経営方針及び施策について

拝啓 株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第 103 期の中間決算を終えて、中間配当の実施を見送らせていただきましたことについてお詫び申し上げますとともに、経営方針及び施策についてご報告させていただきます。

平成 14 年 10 月 29 日に発表いたしました当中間期の決算におきましては、通信市場を中心とする I T 市場の予想を超える冷え込みに対応した事業構造改善費用、製品不具合対策費用等、合計 1,826 億円の特別損失を計上し、最終損益は前期に引き続き大幅な損失となりました。これに伴い、誠に遺憾ではございますが、中間配当を見送らせていただきました。株主の皆様のご期待に反しましたことを深くお詫び申し上げます。

なお、当期に実施しております構造改革につきましては、世界的に見て競合他社が大規模な人員削減等によりコスト構造を見直している中で、将来にわたって競争力を確保していくためのものです。これにより事業体制の整備及び大規模な構造改革は目途がついたと考えております。

当社グループでは、これまでの事業構造改革により、固定費の削減を進めており、第 2 四半期では若干の営業利益に転じておりますが、当中間期は 232 億円の連結営業損失となりました。下期の利益体質化を図り、年間を通しては連結営業利益 1,000 億円を達成すべく、当社グループが一丸となり努力しております。

I T 産業は、現在技術や利用の面で大きな変革の時期にあると認識しており、特にソフト・サービス主導が明確になってきております。当社は、サービス事業での先進性を一層強化し、新しい時代のソフト・サービス体系の構築やビジネス推進体制の改革等の具体的施策を実施してまいります。また、そのサービスをより付加価値のあるものにするために、最先端技術の開発をさらに推進し、電子デバイス、プラットフォーム製品、サービス等の総合的な技術力を結集したソリューションビジネスをさらに強化してまいります。これにより、お客様の経営にとってますます重要性を増し、要求が高度化する I T システムをこれまで以上に実現していくことで、今後の抜本的な業績回復を図るとともに所有する資産を有効に活用し、株主資本の健全化を進めてまいります。

今後とも株主の皆様からの信頼回復に向け、役員をはじめ全社一丸となり邁進する所存でございますので、株主の皆様におかれましても、何卒ご理解を賜り、倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成14年12月

富士通株式会社
代表取締役社長

秋 草 直 之